

◆日本近信
博士を稱號として
學位を全廢

◆博士を稱號として
學位を全廢

◆日本近信

委員會好きの前内閣が現内閣に還した諸種の委員會議のうち教育會議は引継ぎ続するところより近く開會する筈であるがこの會議には年來の懸案であつた學制問題は殆んど前内閣時代に議されたるから現内閣は教育問題中の最も難問題であつた學位令の改正に着手しなればならぬこと、なつた、帝大の學制調査會議當時帝大側の學位會改正に關する成案は容易に諸教授の意見の一致を見なかつたることとし稱號認可の方は從來の博士會及び總長推薦等を全廢して全部論文を提出する事とした而して其の論文に各官立大學の教授會議に於て審査し許可すべきものに對しては文部大臣これを許可することに一決した斯く決議したわけは私立大學の立場より見れば私立大學も同じく大學である以上論文審査の権利を共有したいとの意見もあらうが是は理論として正當であるが實際上私ひ便所へは必ず赴くやうに立大學は官立大學と同様の内容を具備しては居らぬから私立大學が文部省から官立と同一の學位論文審査權を得ることを希望してゐても質質の異つたものに同等の待遇を與へる事が出來ぬ隨つて私立大學にも博士の學位を許すこなれば矢張り從來の私立大學の學士號の如く一々校名を博士號の上に冠さねばならずさうすれば結局私立大學は博士號故學位要求の眞の希望を達しないこととなるから其審査權をば◆帝大に握り實行權だけ文部省に留保することにしようといふのであるこの決議は從來の學位令に比べると非常な改正で博士も單なる稱號となりことはよしそれが學士よりも一等上のものごしても其の權威は學位といふ學界最高の表彰でなくなり自然

◆教育會議の大問題

教育會議の大問題は、殆ど前内閣時代に議されたるから現内閣は教育問題中の最も難問題であつた學位令の改正に着手しなければならぬこと、なつた、帝大の學制調査會議當時帝大側の學位會改正に關する成案は容易に諸教授の意見の一致を見なかつたることとし稱號認可の方は從來の博士會及び總長推薦等を全廢して全部論文を提出する事とした而して其の論文に各官立大學の教授會議に於て審査し許可すべきものに對しては文部大臣これを許可することに一決した斯く決議したわけは私立大學の立場より見れば私立大學も同じく大學である以上論文審査の権利を共有したいとの意見もあらうが是は理論として正當であるが實際上私ひ便所へは必ず赴くやうに立大學は官立大學と同様の内容を具備しては居らぬから私立大學が文部省から官立と同一の學位論文審査權を得ることを希望してゐても質質の異つたものに同等の待遇を與へる事が出來ぬ隨つて私立大學にも博士の學位を許すこなれば矢張り從來の私立大學の學士號の如く一々校名を博士號の上に冠さねばならずさうすれば結局私立大學は博士號故學位要求の眞の希望を達しないこととなるから其審査權をば◆帝大に握り實行權だけ文部省に留保することにしようといふのであるこの決議は從來の學位令に比べると非常な改正で博士も單なる稱號となりことはよしそれが學士よりも一等上のものごしても其の權威は學位といふ學界最高の表彰でなくなり自然

◆島村抱月逝

島村抱月逝

學者に對する尊敬も失はるなりせぬかといふ說學は依然學位として官立博士號を望むであらうから於ては定めし議論百出するといふ

●金銀貨多少に拘らず候皆可申上候
●日本金兩替
●ブラジル語獨習 紙數三百十二頁 發行所 東京
●英語、日本語の三國會話に出来居る如き
●故英語の養育ある御方には殊に便なり
●未だ曾て本書の右に出る良書を見ず
●内單語大多數なり本書はブラジル語で
●數年の間幾多の葡語研究書出版せられし
●土佐鋸及大工道具類化粧品書籍類
◆各種種物
◆大根之部
平莖豐玉大根○改良丸尻宮重○改良
宮重長大○結球豐玉白菜○白莖三
河島菜○直隸白菜○白菜○天王寺大
ふ○小松菜○千筋白菜○山東菜○朝
志○練馬秋マツリ大根○黃二十日大
根○守口大根○聖護院大根○方領大
根○晚生櫻島大根○以上一合二ミル
五百宛
◆蕪之部
大王かぶら○結球豐玉白菜○白莖三
河島菜○直隸白菜○白菜○天王寺大
ふ○小松菜○千筋白菜○山東菜○朝
志○練馬秋マツリ大根○黃二十日大
根○守口大根○聖護院大根○方領大
根○晚生櫻島大根○以上一合二ミル
五百宛
◆豆之部
○白八つ房いんげん○赤刀豆○赤豆
無いんげん○白葛無いんげん○白刀豆
豆○鈴成いんげん○お多福豆○大玉
いんげん○お多福いんげん○以上一
合二ミル五百
○以上一合二ミル五百
●貸本可仕候
●ラジル時報市内申込所
聖市コンデ
サルゼーダス街五
木藤商會

大學生の増俸

●金銀貨多少に拘らず候皆可申上候
日本金兩替
プラジル語獨習
紙數三百十二頁 發行所 東京
送料其六ミル
秀英舎
葡語を知る人は大勢力にて
将來の大發展を期するには本書に依
てプラジル語を學ばざる可かずら
數年の間幾多の葡語研究書出版せ
られしも未だ曾て本書ノ右に出る良書
見えず
内單語大多數なり本書はプラジル語
英語、日本語の三國會話に出来居る
故英語の養育ある御方には殊に便な
り
土佐鋸及大工道具類化粧品書籍類
◆各種種物
◆大根之部
平莖豐玉大根〇改良丸尻宮重〇改良
宮重長大〇結球豐玉白菜〇白莖三
候
河島菜〇直隸白菜〇白菜〇天王寺大
根〇練馬秋マツリ大根〇黃二十日大
根〇守口大根〇聖護院大根〇方領大
根〇晚生櫻島大根〇以上一合二ミル
五百宛
◆蕪之部
大王かぶら〇結球豐玉白菜〇白莖三
候
ふ〇小松菜〇千筋白菜〇山東菜〇朝
鮮白菜〇白基體菜〇絆のかぶ〇近江
かぶ〇胡麻かぶ〇大長がぶ〇時なし
かぶ〇黃金かぶ〇大平莖ふだん草〇
日本ふだん草〇たかな〇結球山東菜
聖護院かぶ〇大王白菜〇ちりめん
白菜〇黃からしな〇葉からしな〇以上
一合二ミル五百宛
◆豆之部
○白八つ房いんげん〇赤刀豆〇赤豆
無いんげん〇白葛無いんげん〇白刀
豆〇鈴成いんげん〇お多福豆〇大玉
いんげん〇お多福いんげん〇以上一
合二ミル五百
●貸本可仕候
ブラジル時報市内申込所
聖市コンデ
サルゼーダス街五
木藤商會

賣元
峯月堂

采
之
大
物
共
垂
此
日
候
在
候
修
所
力
打
走

木藤商

沖繩縣人諸君（

沖繩縣人諸君（二）

翁長助成

人の中で農業者程單純で正直なものはあるまい、農業者の長所は實に茲にあると同時に一歩誤るごとに終へない厄介者となるのも亦單純で正直だからである。此の正直な者の農業者を能く導いて益々正直に業務に精勵せしめる様にするのは所謂知識ある人々の義務である、之を例へて云ふなら、移民として渡航して來た者は兵卒で、通譯とか監督とか云ふのは先づ士官である、と云つたからして移民は皆が皆、通譯監督より以下の人間だと解してはいけない、兵卒の中にも士官以上の人物は澤山居る、然し一般に士官は兵卒以上に軍隊の事をよく知つて居るのと同様、通譯監督乃至聖州在住の知識階級の人達は、移民よりも伯國の事情に委いだのは事實である、されば此知識階級の人は眞面目に移民を誘導しなければならないのに却つて自分獨りの利益のために日本人全體の不利益をも構はず、正直な移民が伯國の事情に暗いのを好い事にして、虚構な言を以て之を煽動以てストライキを起させ、逃亡を敢てせしめ已れの懷中を暖める者があるのは遺憾此上ない事である。

そして斯う云ふ人の手に掛つて前後の見境もなくストライキ、逃亡を企て之を實行して居るのは、縣別にして沖繩縣が第一である、移民會社に來る耕地のゴタトの報告の八分通りは實に沖繩移民である、私は騒動を起す移民を咎めるよりも寧ろ彼等をして斯う云ふ事を起させる様にする沖繩の舊移民、及び沖繩縣人を喰ひ物にしようとして居る所謂高等ゴロツキを惡むのである。

（文苑）

燕の涙

『一體自分は如何したら宜いんだろ
う』
『達也は放げる様に獨り言ひながら吸ひかけた巻煙草を無難作と云ふより寧ろ亂暴に近い仕草で灰皿の中

に放げ入れた、紫の紅い煙が乾燥き切つた小さな室の空氣の中にスラり立ち昇つた、彼は物憂うな目付でジッと煙の行方を見つめた、スマーフ筋か立ち昇る煙は丁度「水死の女」を題して展覽會を賑はした佛蘭西の書家の書いた繪を思ひ起させた、そうして濱邊に波打ちあげられた蠟のやうな肉線の美しい煙の顔が何分かの交渉を今日まで持つた女の顔に段々と近づくやうに達也には美しい中に何處かに凄味を帶びた女の顔……そうして其の顔が却つて自分と幾分かの交渉を今日まで持つた女の顔に段々と近づくやうに達也には思はれた、彼は現實を遠くはなれて夢幻の境地に獨り幻影を追ひ廻しながら過去の追憶に耽りながら飽かず青褪た金髪……青褪た金髪を今日まで持つた女の顔に段々と近づくやうに達也には煙の行方を眺めて居た、それも彼が机の上にある一封の手紙……それには何したら宜んだろう……。

結婚の式も九月の十一日、思ひ
依らずにかくも亡き父君の命日に
のみ葬出度き事のつゝことは是れ
も亡き父君の御庇護下されしにあ
て存せられその奇縁に感じ申し
候、只だ此の上は其方が歸朝妻妾
の日の一日も早く來らんこそ此の
母の願ひにて候、金儲けは望み
さす只だ其方が人間らしき人間
として歸朝せらるゝ事をのみ願ふ
居り候、その時こそ此の母が地元
に眠り給ふ亡き父君に對し面會の
出來得る時に候、未來永劫亡き父
君に遇はせ給ふご否とは是れ偏て
其方の決心一つに候よ／＼心から
る可く候……

裏の柿の實は今年は鉛のやうにな
り申し候も山の栗は駄目にて候

九月十八日 母より

達也ご

こ再び読み返した達也は深かい深か
紙自省の谷底に蹴おとされた様な氣むら如
した。渡舟前それは丁度五月の中であ
つた亡父の靈柩暇乞のために
鄉した、百十二段もある高い秋葉
の石段を登つた處にある先祖の墓
付それは亡き自分の父が大の先祖と思
たと云ふ大きな御影石の三基の墓
が並んで居た……に参詣して暇乞
した、そうして心密かに決心を誓
た、山吹の花が一つ靈ありげに散
れた、寂しそうに、

達也はかうした故國の思出でに
つた時「不孝者……不孝者だ」と
分から叫んだ、そうしてその聲が
るまで悔恨の苦痛に沈んだ、は
は「人間らしい人間」と母の文句を一
び繰返した、
達也の瘠せた頬に熱い熱い涙が流
た。

は『一九一八年戦闘終息』と云ふ
な美名を付けられて、汝は青史に
あるのである。行けよ我が朋一九二
年！

別れに臨んで餞として、伯國に咲
た大和櫻の初花の物語を話さうか
去我が同胞が渡伯してから既に十有
年の歳月を経過したが、其間慈善
事業とか、公共事業とかに、美しい
花を咲かせたと云ふ事を私は未だ耳
しなかつたが、今年村上虎次郎氏
唱の下に同地在住の同胞諸君は、
行元節の祝賀を紀念する爲めに宴會
第一をサンタカーザに寄附せられ
迄之が伯國に於ける大和櫻の咲き初
始であったが、花が小さかつた爲めに
精神迄も見落した人もあらう。
が結いて伯國日本人青年會發金の下
同主意の寄附金募集を、同胞諸君諸君
一般に諂られ年末までに纏つた十四
ントスの應募金は夫れど分配せられ
こなつた、金の高はさて措き、此
笑といふものは在伯同胞三萬の美し
其心の花の集合である。我が在伯同
床が、これ程迄に一致協力した事は
に今回が初めてである。私は喜びに
限らずは櫻なりけり。

由來大和櫻の一輪は、さまで美し
ものではない、薔薇や、ダリヤや
牡丹や、薔薇等は、より美しからう
野に咲く花でも櫻より美しいのも
いふ、然し

芳野山霞の奥に知らねども見ゆ
歌はれた様な、満山花に包まる
集合美は、到底外の花の及びまじ
ぬ處である、こゝに大和櫻の眞の
ひがある。

我が日本が二千六百年の世界無比
美しい歴史を保つて居るのは實に
民團結の結果に外ならないのである。
大和魂の結合である。

此度のサンタカーザ寄附の如き實
大和櫻の集合美である、個人々々
心の花の集合美である。

アペ植民地
ノウ・獣醫、農業技師、測量技
等常置し植民の保護誘掖
紙を有す
四通八達交通自在なり
は新來植民は耕作時期
請負の勞働に從事すここ
貢乏しき者にても自作
方法あり
地視察者の爲め「サントス」より
ストロに到る道案内
は毎月曜日水曜日（午前九時二
け午前七時）にして其ジユキア
釣百レイスなり
場近くに小旅店二軒あり。宿料參
除取極め置く方宜し。
ンランシャにて「ジユキア」を立て
に到着すべし

CASA DA LAVOURA

ANOR GARCIA COMP.

NEGOCIANTE

Fazendas Armarinhos Seccos e Molhados

Compram e Vendem Café e Cereais

OBOESTE : **BIRIGU**

人君之臣

二

アグ候販事は特雇請

ノイ トマト 買賣 特別 ひよ

入日別在社に於ける賃金

、にての家は日暮に至る。

日本 女僕 候 御

本日價目表

人譜

以 論 人

伯刺西爾拓殖會社

| |
|---|
| <p>ソロカバナ線一等地を廉價にて年賦賣却す</p> <p>拙者所有のサンタマリヤ耕地に於て上アルケーレス以上百アルケーレスのロツテを左記條件にて賣却す 賣買契約成立の時 満一年後に 満二年後に 満三年後に 最後の六年の一拂込の時地券を讓渡す</p> <p>半額拂込 六分の一 六分の一 六分の一</p> <p>大正八年 一月二十四日 エドワード・ロスキ</p> <p>Eng. Eduardo Loschi Rua do Rosario, No. 12 São Paulo Ernesto Caleffi Estação Rancharia, L. Sorocabana.</p> |
| 又は |
| 又は |
| 又は |
| 又は |

美利具比殖民地

Eng. Eduardo Loschi
Rua do Rosario, N°. 12 São Paulo
Ernesto Caleffi
Estação Rancharia,
L. Sorocabana.

、希望の御方は左記へ御照會ありたし

後の六分の一拂込の時地券を譲渡す
賣出す土地は所有權確實にして土地賣買契約の
もの書類を一覽に供すべし、土地はソロカバナ
シヤリヤ驛より八キロメートルの處に位し、
ノの道路好良にして常に之が修繕に意を用ゆ、
地には既に百アルケーレスの栽培地ニ製材場ニ
又驛より六キロメートルの處にはバトリモニ

ソロカバナ線一等地を 廉價にて年賦賣却す